

『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

第11回 友人と30年を振り返る

(毎月掲載)

永田 隆一

先日友人と、神楽坂で集いました。皆さん、白髪が増えていたり、髪の毛そのものがなくなっていたり。奥さんが病気。お子さんが引きこもり。親御さんが徘徊。どうしても、暗く、厳しい話題が多くなるのも、53歳という年齢なのかもしれません。大笑いで話しながら、皆で少し振り返ってみました。

《20歳の時》

20歳の時に何を考えていただろうか?の問いかけに、

A:何も考えていなかった、ただ毎日を楽しんでいた。

B:マージャンで、国士無双の13面待ちで、つもりたかった。

C:とにかく早く社会に出たかった。

D:ユミ子、命だった。

E:とにかく女性にもてた。と、大いに勘違いをして生きていた。

《30歳の時》

A:何も考えてはいなかった。ただ、仕事が面白くなってきて、仕事、仕事の毎日だった。

B:組織に埋没することをきらい、公認会計士の勉強に打ち込んだ。

C:世界を股にかける、ビジネスマンをめざした。

D:ユミ子にあっさり振られた。仕事に打ち込んだ。上司の苦悩、部下の苦悩、いい仕事ができただ後に飲む酒が本当にうまかった。

E:仕事に集中した。新しい提案が通って仕事、仕事で、楽しかった。

《40歳の時》

A:大きなプロジェクトを任されて、部下100人、自分をほめてあげたいほど、良い仕事をした。

B:ベトナムの素晴らしさに目覚めた。俺は、ベトナムに移住すると明確な目標が持てた。ベトナム語を本気で勉強し始めた。

C:気が付いたら、そこそこの、国際ビジネスマンになっていた。会社組織のマイナス面ばかりを見る機会が増えて、そろそろサラリーマンも飽きたなと思い始めた。

D:仕事は多忙、責任も重い、妻は相手をしてくれない。安らぎの場所を、酒場に求め始めた。再婚した。子供を作るために、1回50万円の金を何度か払った。可愛い娘が生まれた。

E:突然子会社に出向させられた。子供が引きこもりになった。自分も病気になった。蒲田の小さいスナックのママのお店だけが安らぎの場所になった。

《50歳の時》

A:一部上場の企業が、突然倒産した。自分で個人事業主として、人に恵まれてなんとかサバイブしているが、2カ月前に、契約が突然解消されて、ブー太郎を2カ月。

天がくれた夏休みと前向きに捉えて、毎日、勉強をしている。

B:ベトナム語は、十分上達した。独身で頑張ってきて十分な貯金もある。部下8人は、全員自分より年上。仕事はこなすが楽しくはない。今年の夏、いきなり体重が減少し始めた。2カ月で15kg。精密検査を受けた。がんではなく、バセドウ氏病といわれた。甲状腺の異常で、何もしていない時でもジョギングしているような状態で、エネルギーの消費が高くなる病気。投薬だけで別段日常生活には不自由はなし。ベトナムの夢を実現する時が来た。

C:起業して8年になる。リーマンショックのここ3年は、本当にきつかった。クライアントが突然倒産。しかし、サバイブできている。継続する自信だけはある。俺は世に出ると、考えている。

D:今も仕事、仕事、そしてときどきユミ子(笑)。

E:本社へ復帰した。流れが変わった。もう一度、大いに勘違いして生きていこうと本気で考えている。

その後、皆で、私が尊敬する田中角栄の孫娘(31歳)がやっているバーへと繰り出しました。

(毎月掲載)